令和2年度　学校関係者評価書

鈴鹿市立鈴峰中学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て） 成果と課題	目標指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力保障	全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック（以下みえスタ）の結果を分析し，授業改善に活かす。 【成果と課題】 ●全国学力・学習状況調査に関しては，コロナ禍の影響で中止になり，分析するデータの収集ができなかったので，他の方策を検討する必要がある。 ○2年生の第1回みえスタの結果は3教科とも0.4%～4.5%県平均を上回っていた。 ●1年生の第1回みえスタの結果は3教科とも1.2%～5.5%県平均を下回っていた。 ●1・2年生国語は作文，数学は割合や資料の活用，理科は実験の考察を含む記述問題に課題がみられた。 ○第2回みえスタに向けて，第1回を通して見えてきた課題の対策を各教科においてみえスタ対策プリント「まなviva」やみえスタの過去問を活用して取り組んだ。	学調：全国平均以上 みえスタ：（2年1月）県平均以上	・小規模校の強みとして，教職員が全生徒の情報を共有することができていると考えられるので，さらに継続した取り組みを行っていただきたい。 ・学年が上がるにつれ，平均値が上昇していることは素晴らしいので，課題の改善に向けた継続した取り組みをしていただきたい。 ・昨年度は，多くの生徒が第１志望に進学されたとのことだが，これからも3年生の進路の結果を踏まえた検証と実践をしていただきたい。	・みえスタの対策はおこなったが、試験直前ではなく，朝学活の時間などを活用して、定期的に取り組んでいく。 ・数学の資料の活用については学習の習熟度をはかる機会を設ける。 ・新学習指導要領に合わせて授業改善していくことが，みえスタや学調の対策につながると考えられる。
人権教育	全教育活動を通していじめのない集団づくりを推進する。 【成果と課題】 ●積極的肯定56.1%，消極的肯定含む91%で目標値には達せなかった。しかし，市の平均値の積極的肯定48.3%，消極的肯定を含む88%を上回るとともに，本校の昨年度の結果積極的肯定53.2%より向上しているので，これまでの取り組みの成果は上がっていると考えられる。さらに積極的肯定60%以上を目指したい。 ○いじめの標語を生徒会主体で作成し，全校生徒で取り組むことでいじめを許さないという認識を定着させることができた。 ○校区人権フォーラムでは，４小学校の代表児童と中学生とが人権に関しての交流をすることができ，有意義な時間をもつことができた。 ○人権の公開授業を行い，障がいなどを中心に人権問題について考えることができた。 ○2学期いじめアンケートでは，「はい」と回答した者は90%であった。しかし，学年によるばらつきもあるので，どの学年も90%以上になるようにしたい。	「クラスでは安心して学ぶことができる」： 積極的肯定60%以上，消極的肯定含む95%以上 「いじめを見たり聞いたりした時に，やめるように言ったり，誰かに伝えたりすることができる」：はい90%以上	・学校独自の目標値には達していないが，市内の中でもトップクラスの高水準と考えらえれるので，高い目標値をもって子どもたちの思いを向上させることに努めてもらいたい。 ・校区人権フォーラムへ小学生が全員参加していたと思うが，代表者のみの交流になったことは少し残念である。代表者からの還流報告が適切に行われるよう期待している。 ・自分の命を大切にする教育が大切であるので，子どものうちにすべての学習活動において教育していく必要がある。人を傷つけたり，若くして命を落とすようなことがないようにアンテナ高く，子どもたちに寄り添った指導をお願いしたい。	・目標値を60%としているが，安心して学ぶことができるクラス経営を目指すので，引き続き肯定95%以上とする。 ・人権フォーラムについては，費用の中で児童全員の移動が難しいため，代表者のみとなった。今後も代表者のみで行うこととなっている。還流報告は適切に各校で行われているため，今後もすべての児童生徒に行っていく。還流の形式を統一させるなど創意工夫をしていく。 ・子どもたちがいじめを見て見ぬふりすることなく，やめるように言ったり，誰かに伝えたりすることができる生徒
生徒指導	・生徒承認システム「いいとこみつけ」等を活用し，承認活動を行う。 ・スクールカウンセラーや不登校対策アドバイザー，関係機関と連携し，不登校対策を行う 【成果と課題】 ○生徒承認システムの活用により，積極的肯定52.8%，消極的肯定含む92.6%（9月）であり，市の平均が44.7%，　87.8%であることから成果が出ていると考えられる。 ○スクールカウンセラーの助言は専門性も高く，生徒指導・不登校対策を行う際に大変役に立った。また，カウンセリングによって生徒，保護者に寄り添うことができた。 ●生徒の状況が多岐にわたるため，その都度，状況にあった指導をしていく必要がある。 ●スクールカウンセラーの勤務形態が中学校区に週１回となっており，本年度，本校は原則午前中，校区4小学校においては午後となっている。本校において，午後に勤務していただく日が増えたとしたら、対応できた事象が増えたと考えられる。	「先生はあなたのよい所を認めてくれる」： 積極的肯定60%以上，消極的肯定含む90%以上	・いいとこみつけは非常に良い取り組みである。学習面でも効果を発揮できると思われるので引き続き継続していただきたい。 ・いいとこみつけの取組について，どの子どもについても漏れなく取り組みを行い，子どもによってコメントの多い少ないの差が出てしまうと別の問題が生じるので，是非差異がでないように配慮していただきたい。また，内容についてもコピー＆ペーストの記述とならないような取り組みをお願いしたい。 ・悩むことは子どもも大人も誰にでもあることなので，相談できる勇気を持てるような教育を提供していただきたい。 ・子どもたちがさらにたくましく育つような教育を提供していただきたい。	・いいとこみつけの取り組みについて、どの子どもについても差異がでないように，担当学年で定期的にチェックをする。 ・情報交換を組織的に行えるように工夫する。 ・本校は各教員が問題行動の未然防止に努めているので，どのような対策をしているのか共有を図る機会を定期的に設ける。
開かれた学校づくり	学校運営協議会を活性化し，家庭・学校・地域の協働による学校教育活動を推進する。 【成果と課題】 ○本年度から校区合同学校運営協議会を開催した。コロナ禍の為，人数を制限して開催した。 ○新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底したうえで，可能な限り，生徒の活動の様子を見てもらえるようにした。 ○校庭の樹木の伐採・剪定等の活動を定期的に行なうとともに，メール配信を活用し，環境整備ボランティア募り，4回活動をした。 ●状況の変化に伴い，安全確保したうえでの柔軟な対応を検討する必要がある。	・校区合同学校運営協議会の開催 ・教育環境整備の協働実施	・評価項目にないことについてもこれまで通り，随時，意見や評価ができるような仕組みを作っていただきたい。また，鈴峰中学校区スローガン「地域とともにたくましくチャレンジする鈴峰の子」に即した検証・評価が必要である。 ・今年度はコロナ禍で企画立案が難しいと思うが，子どもたちの将来のためにキャリア教育を充実するような取り組みを進めていただきたい。 ・環境ボランティアなど，地域と学校が協働した取り組みを継続することが，子どもたちのよりよい育成につながっていると思われる。	・鈴峰中学校区スローガンに即した取り組み，及び検証ができるよう項目や指標を工夫する。 ・感染症対策を確実に行い，地域人材を生かしたキャリア教育を企画する。
教職員の働き方改革	定時退校日の設定や各種会議の精選と短縮化，年休等の取得促進を図り，「総勤務時間の縮減」に努める。 【成果と課題】 ○時間外労働時間は月平均15.3時間(12月末現在)で，昨年度より3.8時間減少している。また，月45時間超の職員は現在のところ延べ0人であり，時間外労働は縮減されている。（参照：平成30年度32.1時間，令和元年度19.1時間） ○年360時間を超える時間外労働者延べ人数0人の見通し（12月末現在） ○校内衛生委員会を中心に職員の勤務状況表を作成し，組織的に勤務状況把握をしたことで，業務シェアを可能にできた。 ○出退勤システムの導入による在勤時間の明確化や部活動ガイドライン等の規則の遵守などにより、職員の時間外労働時間に対する意識が向上し、時間外労働時間の短縮に繋がっている。 ●平均休暇取得日数は16.2日（12月末現在）で，昨年度の取得日数を下回ってしまう見込みである。今年度は，コロナ禍の対応で，休暇取得しやすい長期休業日が短縮されたこと授業日に休暇を取得することが難しい現状があるので，対応を検討する必要がある。（参照：平成30年度20.1日，令和元年度26.3日）	・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 ・平均休暇取得日数22日以上	・導入されたChromebook等を適切に活用いただくことは，子どもたちへの教育にとっても効果的であるので，推し進めていただきたい。 ・保護者や地域からは，部活動におけるニーズがあるので，活動日数や時間に差異が出ないような運営をしていただきたい。 ・時間外労働時間が増えることも懸念されるが，部活動の朝練習を行っている部とそうでない部があるが，学校として統一した取り組みをした方が良いのではないかと思う。 ・鈴峰中学校の教職員の皆さんはかなり子どもたちのために取り組みを進めている。皆さんにも各家庭があるので，無理しすぎることなく，健康に教育活動に取り組んでいただきたい。	・部活動保護者会を1回以上開催し，現状と今後の取組について丁寧に説明を行う。 ・鈴鹿市運動部活動指針に即した部活動運営を適切に行うとともに科学的根拠に基づいた効果的な指導について検証・改善を行う。